

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

<p><研究課題名></p> <p><u>特発性消化性潰瘍の実態調査</u></p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科 (研究責任者)中島 典子</p>
<p><研究期間></p> <p>承認日 ~ 西暦 2025年 1月 20日</p>
<p><研究の目的と意義></p> <p>胃・十二指腸潰瘍のうち二大要因が原因とならない潰瘍において、どのような特徴があるか、どのような背景因子があるか、あるいはどの薬剤を用いれば治療に奏功し再発を防ぐことが可能かを明らかにすることを目的とした多施設調査です</p>
<p><利用する試料・情報の項目></p> <p>胃カメラを受けて頂いた患者さんの中でピロリ菌が除菌後もしくは未感染状態であり、解熱剤や痛み止めなどの非ステロイド系消炎鎮痛剤 (NSAIDs) を内服していない胃・十二指腸潰瘍患者さんの背景や治療の状態などの情報などが対象です</p>
<p><対象となる患者さん></p> <p>2014年10月1日から2019年9月30日までの間に胃カメラを受けて頂いた患者さんの中でピロリ菌が除菌後もしくは未感染状態であり、解熱剤や痛み止めなどの非ステロイド系消炎鎮痛剤 (NSAIDs) を内服していない胃・十二指腸潰瘍患者です。診断後、潰瘍治療が開始された方が対象です</p>
<p><研究の方法></p> <p>カルテ情報より、対象患者さんの年齢、性別、身長、体重、嗜好、活動度、基礎疾患、抗血栓薬の有無と種類、胃薬の有無と種類、その他内服薬、症状、病変径、病変位置、病変の状態、胃粘膜萎縮の程度、食道裂孔ヘルニアの有無、逆流性食道炎の程度、胃底腺ポリープの有無、胃内食物残渣の有無、ヘリコバクターピロリ非感染の確認方法、ヘリコバクター・ピロリ除菌歴、栄養状態 (総蛋白・アルブミン・総コレステロール)、腎機能 (尿素窒素・クレアチニン)、血清ガストリン値、抗壁細胞抗体、小腸病変の有無、大腸病変の有無、治療経過の内容、治療後効果判定内視鏡所見を取得し後ろ向きに検討します。</p>

<外部への試料・情報の提供等>

当施設で収集させていただきましたデータは、患者 ID や氏名などの個人が特定できる情報を削除して匿名化し、大阪医科大学へ提供します。

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は当院内消化器肝臓内科が保管・管理します。

<研究組織>

研究責任者：内科学Ⅱ 教授 樋口和秀

主任研究者：消化器内視鏡センター 准教授 竹内利寿

分担研究者：消化器内視鏡センター 特別職務担当教員（講師） 小嶋融一

内科学Ⅱ 助教 原田 智

内科学Ⅱ 助教 太田和寛

内科学Ⅱ 助教（准） 川口真平

内科学Ⅱ 大学院生 西田 晋也

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

消化器肝臓内科 氏名：中島 典子

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2424